

アイナメの資源管理に向けた生態の解明

新たな栽培漁業の魚種として期待されているアイナメの、種苗を生産する技術、種苗を放流するための技術、資源を持続的に利用するための効果的な資源管理手法の開発を目指し、生態解明に取り組みました。

研究成果の概要

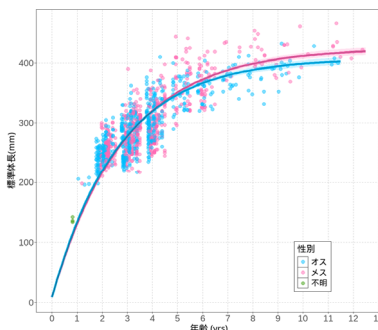
1 背景・目的

アイナメは沿岸性の魚種であり、青森県では利用する漁業者も多いことから、県では令和4年度に「種苗の生産及び放流並びに育成を推進することが適当な水産動物」の一つに加え、新たな栽培漁業の魚種として推進することとしています。

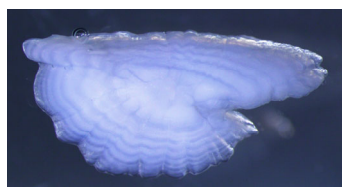
そこで、アイナメを持続的に利用するための種苗を生産・放流する技術や、資源の効果的な管理手法などを開発するために、これまで詳しく分かっていなかった生態等の解明に取り組みました。

2 内容

- 産卵期になるとオスの体色は黄色の婚姻色に変わり、卵を守る習性がありますが、このとき体長275mm以上、年齢3歳以上であることが分かりました。
- 産卵期になり成熟していても、婚姻色にならないオスがいることが分かりました。
- その他、体長と体重の関係や、年齢と成長、産卵期、成熟年齢と体長、移動生態などを明らかにし、資源管理手法を開発する上で重要な知見を得ました。



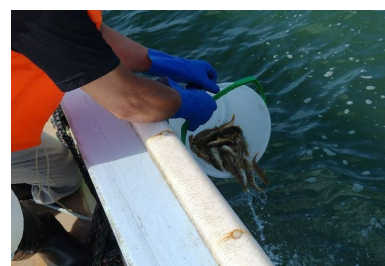
年齢と体長の関係



年齢査定に用いる耳石



標識を付けたアイナメ



標識放流の様子

3 活用等

得られたデータは、成熟開始前もしくは卵保護を行う前の小型魚保護のための全長制限や、成熟時期の禁漁期間の設定など、効果的な資源管理手法を開発するための検討材料となるほか、資源状況を評価するための解析に利用されています。

このことにより、アイナメの資源が適切に管理され、持続的な利用が可能となります。



婚姻色を呈しているアイナメ

関連情報

- 県では栽培漁業基本計画の中で、アイナメの解決すべき技術開発として、種苗量産技術の開発、放流に適したサイズ・場所の検討について重要事項として位置づけています。

